

千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第50週 (12/8-12/14) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		50週	49週	48週	47週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	28	28	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	12/8-12/14	12/1-12/7	11/24-11/30	11/17-11/23	12/1-12/7
			50週	49週	48週	47週	49週
小児科	RSウイルス感染症	○	19 1.06	8 0.44	10 0.56	8 0.47	156 1.18
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.11	1 0.06	1 0.06	45 0.34
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		52 2.89	62 3.44	35 1.94	54 3.18	363 2.75
	感染性胃腸炎		256 14.22	251 13.94	170 9.44	150 8.82	1,453 11.01
	水痘		18 1.00	14 0.78	12 0.67	13 0.76	171 1.30
	手足口病		16 0.89	18 1.00	15 0.83	21 1.24	96 0.73
	伝染性紅斑		7 0.39	1 0.06	2 0.11	3 0.18	80 0.61
	突発性発しん		7 0.39	11 0.61	11 0.61	11 0.65	50 0.38
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00
	ヘルパンギーナ		1 0.06	4 0.22	3 0.17	0 0.00	6 0.05
	流行性耳下腺炎		3 0.17	3 0.17	4 0.22	1 0.06	69 0.52
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○★	357 12.75	223 7.96	150 5.36	84 3.11	1,175 5.60
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	6 1.20	2 0.40	2 0.50	18 0.53
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	1 1.00	2 2.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1 1.00	0 0.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	後天性免疫不全症候群	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出

・結核3件(244)、急性脳炎1件(21)、後天性免疫不全症候群1件(15)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(1)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第50週のコメント

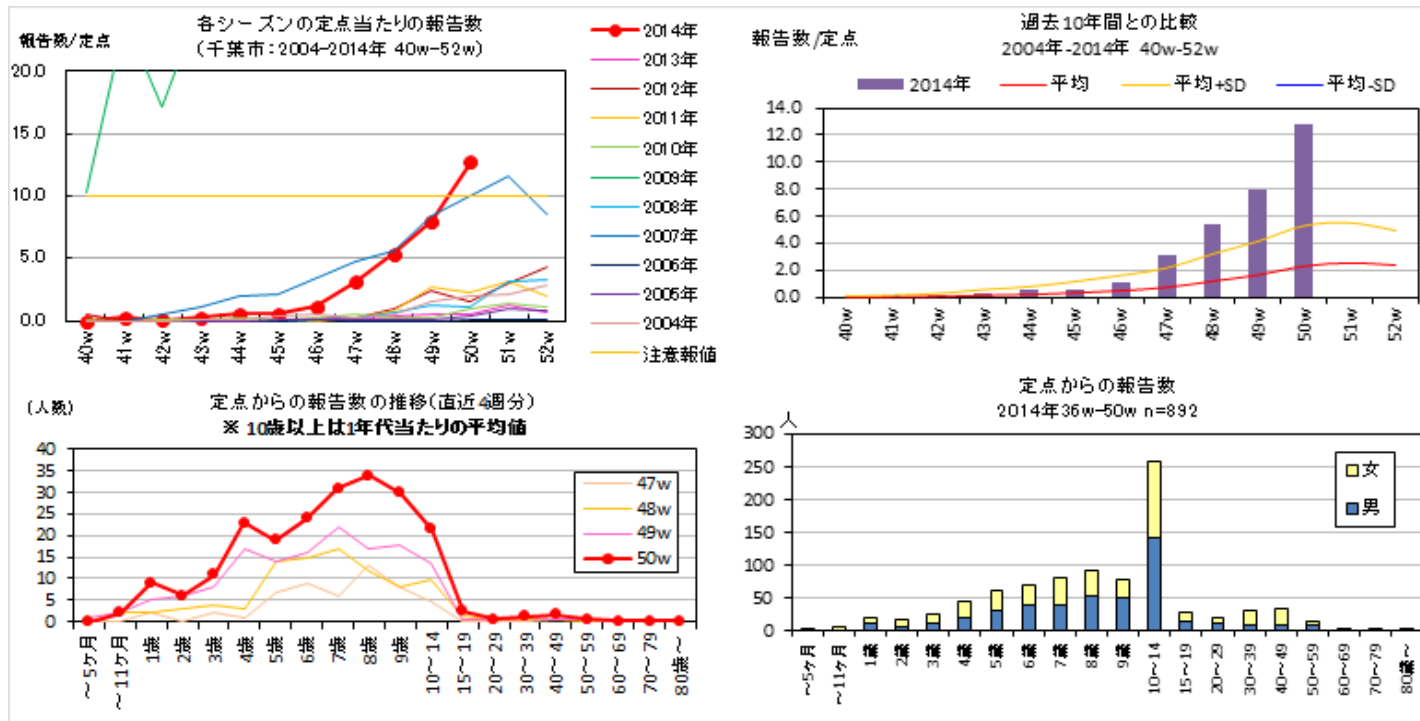
<RSウイルス感染症> 前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<インフルエンザ> 前週より更に増加し12.75となり、流行発生注意報基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

<インフルエンザ>

2014年の全国レベルの第49週現在は過去7年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、岩手県、福島県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより多めとなっています。千葉市の第50週現在は前週より更に増加し12.75となり、流行発生空位法基準値(10.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、緑区(24.0/定点)で流行発生注意報基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、1年代あたりでは4歳及び8歳で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から第50週現在の累積報告数(n=892)によると、性別では男性が52.4%(467名)、女性が47.6%(425名)で、年齢階級別の1年代あたりでは8歳(10.3%:92名)、7歳(9.1%:81名)、9歳(8.6%:77名)の順に多くっており、全体に占める20歳未満の割合は87.5%(487名)、10歳未満の割合は55.7%(784名)となっています。



<RSウイルス感染症>

2014年の全国レベルは、第46週から連続して過去7年の同時期と比べ最多となっており、第49週現在も同様で上昇を続けています。都道府県別では、徳島県、福島県、香川県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第50週現在は前週より大幅に増加し1.06となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、緑区(2.75/定点)で最多で、同区の1歳～3歳で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から2014年第50週現在の累積報告数(n=124)によると、性別では男性が58.9%(73名)、女性が41.1%(51名)で、年齢階級別では1歳(38.7%:48名)、6か月～11か月(23.4%:29名)、0～5か月(16.1%:20名)の順に多くなっています。

